

大学生のコロナ禍でのソーシャルメディア使用と幸福感 —日常生活と就職活動における使用を比較して—

篠崎 陽介

現在、ソーシャルメディアの使用がユーザーの精神的健康に悪影響を及ぼすことが懸念されている。ソーシャルメディアにはLINE, Twitter, Instagram などのコミュニケーション系と YouTube などのコンテンツ系の2種類がある。本研究ではこの2種類のソーシャルメディアを取り上げ、若年層特に大学生の精神的健康の1つとされる幸福感にどのような影響を及ぼすのかを究明することを目的としている。

COVID-19 拡大前では、大学生はTwitter を使用して情緒的サポートを獲得することはできたが、幸福感への向上効果はないことが示されている(井上・叶, 2020)。現在、COVID-19 の影響で、人々が対面によるコミュニケーションをする機会が減少し、必然的にオンラインコミュニケーションが増加している。また、日常生活のみならず、就職活動におけるソーシャルメディアの使用が増加しているとも報告されている。本研究ではこのような状況を踏まえ、大学生の日常生活と就職活動の両方におけるソーシャルメディアの使用が幸福感といかに関係するのかを究明した。

上記の目的を達成するため、全国の就職活動を経験済みの大学3,4年生を対象に、2021年7月中旬～8月下旬の期間でweb 調査を実施した。調査項目は、個人属性と共に、家族機能や就職活動に関する不安、得られたソーシャルサポート、職業観、及び日常生活と就職活動でのソーシャルメディア(LINE, Twitter, Instagram, YouTube)の使用状況等で構成された。回答に不備があるもの等を除き、253名を最終分析対象とした。分析した結果、以下のことを明らかにした。①就職活動でのソーシャルメディア使用では、男子学生の方が女子学生よりYouTubeの使用時間が長く、3年生より4年生の方がInstagramの使用時間と使用頻度、YouTubeの使用時間が長かった。また、同居している学生の方が一人暮らしの学生より就職活動でのTwitterの使用時間が長かった。一方、日常生活でのソーシャルメディア使用では有意差はなかった。②日常生活では自分の楽しみ・娯楽目的でのTwitter使用が幸福感に負の効果が見られた。③就職活動では先輩との連絡目的としてLINEの使用が幸福感に正の効果があったのに対して、就職活動でサークルなどの連絡網目的でのLINE使用には負の効果があった。

本研究ではコロナ禍という状況でソーシャルメディア使用が幸福感といかに関係するのかについて日常生活と就職活動の2側面から検討した。結果からはコロナ禍とは言え、①日常生活におけるソーシャルメディア使用が従来 of 知見と同様に、幸福感を高めることはできなかったこと；②就職活動におけるソーシャルメディアの使用が極めて限定的であることが示された。

(指導教員 叶 少瑜)